（別紙4）　　平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790100079		
法人名	有限会社　ヘルスサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	沖縄県那覇市若狭3-4-10		
自己評価作成日	平成24年10月17日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100079-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号　クレスト西205
訪問調査日	平成24年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人が自宅と同じように過ごせ、自由な時間や自由に過ごせるように支援を行っています。また、役割を分担しその役割のやりがいの支援も行っています。「いつまでも本人らしい生活が出来る」を心がけています。地域が活発でイベント等にも参加させて頂き、地域の中で過ごせる支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は法人施設3階に位置し、階下には同一法人事業所も同居し、家族会行事や運営推進会議、災害対策（消防訓練）等を合同で実施している。地域交流室は通年で開放し、フォークダンスサークルのメンバーが発表会に向けた練習に利用している。「地域に根差した…」の理念の実践に取組み、職員は利用者が地域と関わる機会を自治会行事が把握できる定例会やネットワーク会議への参加を継続して情報収集し、利用者の行事等への参加や生活支援に繋げている。災害対策についても、毎年実施している避難訓練には地域住民の参加協力が恒例となっている。介護計画にも「本人らしい生き方…」の理念が反映され、毎月のモニタリング実施や3か月毎の担当者会議で利用者や家族の要望を受け、また、職員の意見等を検討して計画の見直しに反映させている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年1月11日

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえた本人本位の生活支援に努めている。理念は共有できている。	事業所の理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえており、個別の生活支援に深く反映している。職員間で話し合い作成した経緯もあり、職員は理念を共有している。例えば、起床時間も利用者のペースに合わせ、朝食時間を遅らせて対応する等、利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、自治会と交流しており、イベントのお手伝いや参加を行っている。今回、利用者は天候の都合によりイベントに参加できない事が多かった。	自治会定例会や地域ネットワーク会議等への参加を継続し、地域行事等の情報を収集し、利用者も参加して交流できるようにしている。また、地域の祭り等の準備に職員も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、地域貢献の機会を作る事ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会で相談を行い、助言を頂き実施し成功する事ができた。意見を取り入れより良いサービスの提供を心がけている。	運営推進会議は利用者や家族、市職員や地域代表等が参加し、同一法人事業所と合同で2か月毎に開催している。会議では、利用者の活動状況や事業所の運営、事故や消防訓練等を報告し、委員間で意見交換している。また、外部評価結果は資料も配布して報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で相談し、協力を得ている。また、相談しやすい協力関係だと認識している。	運営推進会議への毎回の参加を情報交換の機会とし、市職員に利用者状況等を報告している。介護保険制度の改正等については法人等が把握しているので、行政窓口へは提出書類等で訪問するに留まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時にオリエンテーションで説明しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、勉強会を開いた事もある。	「身体拘束等の排除の理念及び方針」を明示し、対応マニュアルも整備している。事業所3階へのエレベーターは、行事参加や受診、家族との外出等に利用され、利用者個々の外出の使用は殆どない。「本人らしい生き方…」を支援する際のリスクについては、担当者会議等で家族に説明し理解を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いたが、時間が経っているため、再度勉強会を行い防止に努めていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員に認識を促した。実際に利用している方が出た場合に、再度、勉強会を持つ予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分に説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議で意見を頂き、運営に反映できるように心がけている。	利用者や家族は運営推進会議に参加し意見表出の機会を得ている。また、外部評価（目標達成計画）で取組みを予定した家族会バーベキューを実施し、家族の思いを直に聞く等で関わりが増え、利用者支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に設けていないが、話しやすい環境に努めています。	利用者の状態変化や活動等を毎朝の申し送りで共有しているが、予定していた個別面談の実施に至らず、職員一人ひとりが意見や要望を表す機会が少ない。	職員間で意見交換できる機会を増やす等の取組みと、個別面談の実現に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常の職員の勤務態度を評価し、上司に報告する。また、実践者研修等、本人がステップアップできる研修を用意する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での情報の交換などを行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	適切にアセスメントを行い、本人の支援を提供している為、信頼関係作りも支援の一部として提供する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	適切にアセスメントを行い、本人の支援を提供している為、それも支援の一部として提供する事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、適切な支援を見極め、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活ニーズに合わせた支援を心がけており、残存機能を活用できる生活や役割の支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族からの支援がうれしいと思われる為、家族にも協力して頂き、共に本人の生活を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が面会しやすい環境や長い時間いやすい雰囲気作りに努めている。	利用者の生活歴を参考に、馴染みの場所での買い物を個別計画に反映し支援している。また、利用者の入信している宗教関係者との関係継続を図り、訪問や外出等にも協力し支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し席を決めている。多少意見の違いによるトラブルもあるが、お互いを刺激しあえる環境を提供できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の意向を検討している。できるだけ、本人の意向を通せるように検討し、支援するように心がけている。型にはめず、本人らしい生活が出来るように心がけている。	利用者の思いや意向は表情を観察したり、直に聞く等で把握している。例えば、お酒が好きな利用者にはノンアルコールを勧めたり、家族の訪問時に見せる表情から思いを汲みとり訪問回数を増やしてもらう等、周囲の協力を得ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、本人にあった接し方を検討し、気持ちよく過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	能力の把握を行い、本人の力で過ごせるような支援を心がけている為、現状の把握は大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと定期のサービス担当者会議にて現状の把握を行い、必要な計画を立てている。	介護計画書は、3か月毎の利用者や家族、介護職が参加する担当者会議や毎月のモニタリングでサービス内容を確認し、計画の見直し等に繋げている。「本人らしい生き方…」の理念が、利用者の介護計画に反映され、「歌が好き」「外泊」「外食」等の支援を継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の状態は申し送りで、情報を共有している。また、変わった事があれば、職員からの情報提供や相談を受ける為、その情報を介護計画に活用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に規制せず、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員とも協力関係でいられるように努めており、本人が心身の力を発揮できるよう心がけて支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族で選んでいる。そのかかりつけ医と関係を築こうと努力している。	利用者6名は協力病院の訪問診療を受け、3名はかかりつけ医の継続受診である。認知症外来や心療内科、他科を受診する際、家族が対応できずやむを得ない場合は受診支援をしている。受診時の情報は口頭により家族と共有している。週1回は訪問看護により健康管理を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報を提供している。病院の相談員とは、連携を取りやすい関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に説明を行い、事業所のできる事を把握して頂いている。実際に重度化した場合は、家族や医療機関と密に連絡を取り、チームで支援を行っていく予定である。	事業所として看取り介護指針を作成し、サービス開始時に医療連携体制も含めて家族等に説明している。家族の要望を受け、職員は勉強会を重ね、事業所としての対応等を検討したが、その後、家族の意向で病院へ移送した事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ダミー人形やAEDを使い、心肺蘇生訓練を行い、実践力を身につけている。今後も継続できるように努めていく。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。それ以外に自主訓練を年に数回実施。総合訓練は、年1回は自治会に協力をお願いし、避難訓練を一緒に実施している。	毎年2回の避難訓練を実施している。訓練に向けた自主訓練も実施し、1回は消防署協力の下で地域の自治会長等6、7名が参加、地域住民は利用者の誘導に協力してもらい、消防署から結果報告を受けている。また、スプリンクラーや通報装置、防火ドア、防炎カーテン等の備品も整備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格を考慮し、その人にあった言葉かけや対応を行っている。	職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの性格や生活歴等を把握し利用者に応じた声かけ等をしている。同性介助を基本とし、異性介助になるときは利用者の了解を得ているが、同性を希望する時は同性で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の声を聞けるように工夫し、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は通所介護の提供を行っている為、ある程度は事業所の都合も理解して頂き、希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訴えのない方はこちらから整髪するよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから一緒に行い、食事作りの匂いや音を楽しみながら、過ごす事が出来ている。	献立は利用者の希望を入れ、食材の買い出しや調理は職員が担当し、下ごしらえや盛りつけ、トレー拭き等に利用者は参加している。食事は全員普通食で自立している。職員は利用者の食事終了後に同じ料理を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回チェックし、体重は月1回測り栄養状態の管理を行っている。また、水分は管理が必要な方のみ管理している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否される事もあるが、基本的に食後は口腔ケアを促し、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促している。オムツは出来るだけ使用せず、トイレで気持ちよく排泄できる環境作りをしている。	利用者の半数以上は自立している。職員は要介助の利用者の便・尿意を感じた時の仕草を把握し、そのタイミングで声かけしている。失敗時はさりげなく浴室に誘導して対応している。ポータブル利用者の伝い歩き見守り支援を繰り返し、トイレでの排せつに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の支援を行っている。また、牛乳等での調節を行っている。内服に頼り過ぎないように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期で決めているが、本人が希望すれば毎日でも支援している。本人で決めて頂いているが、1週間入浴してない場合は清潔保持の為、強めに促し入浴して頂く事がある。基本的に個々に沿った支援を行っている。	入浴は3日に1回午前と決め、入浴拒否が1週間続いたら「芝居見に行こうね」等と浴室まで誘導し「ここまで来たから入りましょうね」と促し入浴に繋げ、利用者は入浴後「気持ちいいね」と喜んでいる。同性介助を基本とし、利用者自身が洗える範囲は本人に任せている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、自由に休息を取れるように支援している。頻尿で眠れない方がいるが、夜間だけが睡眠の時間と考えず、眠れる時に寝て頂くなど、本人の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を開催し、内服に関して理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し、本人に合った支援に努めている。飲酒願望のある方は、ノンアルコールビールで対応し、できるだけ楽しみを提供できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物支援を行っている。本人の馴染みの場所に外出する支援を行っていたが、環境が変わり通いにくくなった為、中止している。検討し継続できるように努めていく予定である。	利用者の買物同行の支援を計画に位置づけて実施している。利用者全員で地域の祭りに参加したり、初詣や花見、黒糖工場見学に行ったり、ドライブ先で天ぷらを食べることもある。年1回家族と食事してドライブしたり、一緒にホテルに宿泊する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の買物依頼に対応したりと、希望がある方は支援するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの位置を固定し、変更しないなど混乱を起こさないように環境の変化を行わないようにしている。	共用の場の利用者の席は相性等を考慮して配置し、事業所側で用意した新聞や雑誌を、利用者は本人のペースで読む等自由に過ごしている。フロアに面したトイレは、入口のカーテンを開ける際に中が見えることがある。冬場の脱衣場の環境は、温めておいた浴室からの換気で対応している。	利用者のプライバシー保護に対する配慮として、トイレのカーテンは開く向きの検討が望まれる。また、冬場の脱衣場の温度についても利用者へのさらなる配慮に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にて他者との交流をしたり、一人になりたい時は居室に戻り過ごされている。利用者それぞれ、思い思いに過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族に相談し、実際に使っていた物を持ち込んで頂くようお願いし、過ごしやすい環境作りに努めている。	居室はベッドと収納棚以外はすべて持ち込みで、寝具も持参している。家族の写真を飾ったり、利用者は居室でテレビを見たり、カセットで音楽も聞いている。動物の絵が好きな利用者の家族に、絵を持ってきてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるよう、手すりの設置やトイレの位置が分かるようにマークをつける等の工夫をしており、安全で分かりやすい環境である。		